

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------------|--|----------------|-----------|
| 事業所番号 | 1491900138 | 事業の開始年月日 | 平成24年3月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成24年3月1日 |
| 法人名 | 株式会社ライフケア鈴栄 | | |
| 事業所名 | 小規模多機能併設グループホーム「和の里」横須賀中央 | | |
| 所在地 | (238-0011) 神奈川県横須賀市米が浜通1-5-5横須賀イーストビル5.6階 | | |
| サービス種別 定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 | 登録定員 | 名 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 通い定員 | 名 |
| | | 宿泊定員 | 名 |
| | | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2 ユニット |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月7日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成27年2月9日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?JGNO=ST1491900138&SVCD=320&THNO=14201 |
|----------|---|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全・快適に過ごして頂けるよう設備の充実を図っており、転倒時の衝撃を和らげる柔らかい素材の床材や施設特有の匂いを防止するオゾン脱臭機などを設置しております。また、駅から歩いて5分程度の場所にあり、役所等も近いことから身元引受人の方にとって来所しやすい立地条件にあります。
介護面では若年性認知症や100歳の方など多様な方にご利用頂く中で着実に経験を重ねた職員が育ち個々人の個性に合わせたケアを行っております。
その他に職員の労働環境にも配慮しており、有給消化率100%、休憩時間はまとまった1時間とするなど働きやすい環境作りにも力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月11日 | 評価機関 評価決定日 | 平成26年12月26日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線横須賀中央駅から徒歩約8分です。16号国道に面した6階建てビルの5階、6階がグループホーム(2ユニット、定員18名)です。同じ運営法人の小規模多機能事業所も4階に併設されています。ビルには保険会社や会計事務所などが入居しており、付近は横須賀の中心地で市役所や病院、商店や事業所などがあり交通の便利な場所です。マンションや戸建住宅なども多く、地域には高齢者も多く住んでいます。

<優れている点>

事業所のサービスの理念は、和の心です。利用者を温かく迎え、地域の人やボランティアの人に笑顔で接しています。介護施設が地域の中に密着して存在し、和の里が福祉の拠り所となっています。和の心は施設の設計にも生かされ、4階の小規模多機能事業所、5階、6階のグループホームとも間取り(木調の居室、リビングルーム、トイレ)、設備(厨房設備、壁面、ドア、オゾン発生器、床暖房、風呂、防災設備)など同一です。小規模多機能事業所からグループホームに移動する時などに違和感が無い様に考えられています。防災訓練も同じビル内のテナントと合同で訓練を行っています。

<工夫している点>

介護情報をきちんと早く収集し、個別ケアの介護記録を整理し、職員が介護情報を正確に共有できるように図っています。研修資料の記録を整理し、回覧しやすい様になっています。その上でフロア毎に会議などを開き共通の情報を基に個別介護計画が立てられています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 事業所名 | 小規模多機能併設グループホーム「和の里」横須賀中央 |
| ユニット名 | 1ユニット |

| V アウトカム項目 | |
|---|--------------------------------------|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="radio"/> 1, 毎日ある |
| | <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある |
| | <input type="radio"/> 3, たまにある |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |

| | |
|--|--------------------------------------|
| 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と |
| | <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと |
| | <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない |
| 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように |
| | <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある |
| | <input type="radio"/> 3, たまに |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどない |
| 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="radio"/> 1, 大いに増えている |
| | <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている |
| | <input type="radio"/> 3, あまり増えていない |
| | <input type="radio"/> 4, 全くいない |
| 66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が |
| | <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |
| 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が |
| | <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 「和の心」を理念とし、利用者・職員間・家族とのやり取りに質の良いコミュニケーションが出来るようミーティング等で話し合っている。また地域との交流は運営推進会議等で当施設の実情を説明していく中で理解が生まれ地域行事への招待も出てきている。 | 法人の代表者が事業の創設時に、理念に「和の心」を発案しました。職員が具体的に進化させた理念は、1、利用者、家族、職員の和、2、事業所と地域の和、3、利用者どうしの交流の和、4、事業所内のデザインの統一の和を日々の介護に生かしています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 町内会に加入しており、敬老の日など行事への参加声掛けを頂いている。また、地域小学校との交流もあり、獅子舞の訪問や児童との交流会などを設けている。 | 事業所と地域は、和やかな「和の心」を大切に交流し、町内会に加入し、お祭りでの子ども獅子舞や地域の小学校の音楽会、敬老会に参加しています。散歩の時の買い物などの時には顔なじみの人と世間話を楽しんで自然な形の交流となっています。 | 更に、事業所と地域の交流を深めるため交流の様子や情報を地域に提供し、参加の機会の増加を図ることも期待されます。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 運営推進会議や見学等で相談事を受けることがあり、その際には施設利用につながらないケースであっても真摯に対応し対応法についてアドバイスをを行っている。また運営推進会議では医師の簡単な講義の時間を設けており参考になる話を提供できている。 | / | / |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 2ヶ月に一度開催しており、取組状況を説明している。その中で出席者からでた希望については柔軟に対応している。（例：従業員の名前が分かるように名札をひらがなで大きく付けてほしいとの希望に対応済） | 年6回開かれ、委員は町内会長、民生委員、医師、運営法人の代表、学識経験者、市職員、包括支援センター職員、事業所の管理者、利用者・家族などです。議題は事業報告と意見交換で、グループホーム、小規模多機能事業所毎に時間を分けて進行しています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 不明な点はその都度相談し、市としての見解を第一に考え対応している。 | 市には、外部評価の報告などおこなっていますが、市内にある46のグループホーム代表が集まるグループホーム協議会では市からの様々な情報報告があります。グループホーム相互の災害ネットワークの動きなど最新情報に接することができ大きな力となっています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 毎月のフロア会議にて「身体拘束防止の手引き」を通読し研鑽に努めている。 | 身体拘束については、運営規定、契約書、重要事項説明書などに禁止の規定があります。虐待に関しても職員研修として月1回のフロア会議で「身体拘束防止、虐待防止の資料」などを基に研修をしています。交通安全の配慮から危険防止ため入口は施錠しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束防止の読み合わせとともに虐待防止についても定期的に行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 10月に勉強会実施。該当者の担当弁護士とは連絡を密に取り、対応している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 説明の際は契約書の読みあわせだけでなく、より噛み砕いた説明を加えながら同意を頂いている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 日々の様子をお伝えする手紙にいつでも相談に応じる旨を記載するとともに家族がご意見を言いづらくならないようコミュニケーションの取り方に注意している。 | 毎月発行する「ひまわり通信」「さくら通信」に家族あての手紙を同封し、利用者の健康状態や近況などを知らせています。返事があることもあり、和やかな雰囲気の見聞を頂くことがあります。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月のフロア会議で話し合うとともに日頃のコミュニケーションで課題の抽出に努めている。 | 職員からの意見は、居室担当者から受ける利用者の情報や相談などから、毎日の引き継ぎや毎月のフロア毎の会議で把握し、共通の情報として、適時に適切な対応を取れるようにしています。介護方法の改善などに職員意見が生かされています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 年2回の面談と年1回の人事考課を行い職員の努力が処遇に改善されるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 各職員の業務理解度を把握するための書式を用意し、理解が進んでいない項目を個別に指導している。外部研修も参加を促し就業時間内で参加できるよう配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | グループホーム協議会の役員を担当するとともに小規模事業所同士の連携事業にも参加中。管理者・経営者向けの集まりにも参加し交流を深めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 事前面談を丁寧に行うとともに体験入居をおすすめし双方の適性・ニーズの合致について慎重に話し合っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 初回面談時に状況・今のお気持ちなどをしっかりお聞きしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 事前面談でしっかり聞き取りをしておくとともに急遽発生した課題に対しても柔軟に対応している。 (身元引受人の急な入院などで生活用品が不足したケースなど) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | おかずの取り分けや食器拭きなど、各入居者様の残存能力に合った手伝いをお願いしお願い・感謝を通してコミュニケーションを深めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 毎月のお手紙で日々の様子をお伝えしたり面会時の会話の中で昔の様子などケアのヒントになる話を聞かせて頂くことがありとても参考になっている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 面会に来てくれた方を大切に対応するとともに近隣から移られた方には自宅周辺の散歩を行い昔からの知人と交流が図れるようお手伝いしている。 | 事業所周辺の散歩などの時は、昔からの馴染みの人や、商店などの顔馴染の人でも大勢おり、自然な形でご挨拶が交わされています。海沿いの道も、大きく地形は変わっていいますが、懐かしい馴染みの場所として大切にしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 双方の関係性を把握した上での席の配置を行うとともに合同でレクをやるなどして関係づくりをサポートしている。また認知症によりコミュニケーションが苦手な方は職員が間に入り対応している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 施設を転居された際、注意点等こまめな情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 日頃から多く会話し利用者の現状理解や人生に対する考え方を把握するよう努めている。 | 職員は和やかな心と笑顔での会話、相手を思いやる自然な触れ合いから利用者の気持ちを解しています。風呂場やソファでの談笑、食事の場では、人生の先輩の色々な話から暮らしの希望や、やりたいこと聞きご利用者本位に検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 専用のシートでこれまでの生活や好みなどの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 一日24時間の睡眠排泄水分が把握できる記録用紙を使い、生活のリズムを把握している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 日頃から職員間で情報共有をするとともに家族からのお話も加味して内容を検討している。また毎月のフロア会議にて全利用者の現状を共有する話し合いを行っている。 | 毎日の情報から、簡単に対応出来ていた事も変化しています。居室担当の毎日の情報も管理者にすぐ届く様になっていおり、より良いケアプランにするために、毎月のフロア会議では、現状を正しく把握して検討し、有効なケアプランの実現に努めています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別の記録用紙にて24時間のリズム把握と利用者の個性・特性が出た場面は必ず記録に残すようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 入ったばかりで人見知りの強い利用者には希望に合わせて居室配膳を実施。また家族が怪我で通院付き添いが困難な場合は職員が対応するなど柔軟な支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 周辺地域の公園やコンビニ、飲食店と顔なじみの関係を作り、行事の際などに柔軟な対応をして頂いている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 24時間対応の医師と契約し、日々の健康管理や急変時など、柔軟に対処している。 | かかりつけ医の継続や往診のある協力医への変更は、家族や本人の希望に沿っています。緊急時には、かかりつけ医に状態を相談し、家族に連絡を取り受診に付き添っています。ケース記録とは別に受診記録があります。精神科や歯科も契約者には往診があります。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 週に一回、看護師が来所し入居者全員の体調管理を行っている。その際に職員や利用者からの相談対応を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医師と家族の面談時には同席し、状態の把握に努めるとともに利用者にとって最善を尽くせるよう話し合っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 状態把握から間を置かず医師・ご家族に相談し看取りの対応相談につながることが出来ている。 | 終の棲家として、本人の想いをしっかり受け止め可能な限り支援したいと考えています。重度化の指針も作成し、身体状況の変化により、家族の意向を確認して対応しています。ケアの方針が変わるたびに職員に周知し、関係機関と連携を図り支援しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | マニュアルを作成し周知するとともに事務所に掲示し定期的に見直しを行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | マニュアルを作成し事務所に掲示、また年2回利用者とともに避難訓練を実施。消火器や施設内防災設備の取り扱いを学んでいる。 | ビル全体で避難訓練を実施し、職員は災害時の対応方法を把握しています。「海拔3m。津波発生時はまず屋上へ避難しましょう」の掲示が各フロアにあります。地域住民参加による夜間想定訓練マニュアルもあり、法人として3日分の備蓄品とリストがあります。 | 既に夜間想定訓練の訓練マニュアル作成しています。今後、地域との協力体制のもと防災訓練が実施できる事も期待されます。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 敬語を基本とし、その方に合わせたコミュニケーションを図っている。相手の希望から下の名前と呼ぶことになった方もいるが、その希望に変化がないかなどご本人の意向を伺いながら継続している。 | 一人ひとりと向き合って会話をし、人としてのかかわりが持てるように常に意識しています。不快な思いをさせないように、利用者の想いを汲んで対応しています。職員は言葉遣いや立ち振る舞いを意識し、利用者とのかかわりが円滑にできるように研修しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 近所のコンビニでの買い物や食事の量など個人の意向が反映できる場面では出来る限り利用者の意向を聞いてから行動している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 家族との外出時の帰宅時間延長も施設のルールにこだわらず柔軟に対応、喫煙なども要望に応じ対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 朝に着る洋服を一緒に選んだり、お化粧をする日を定期的で開催している。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食器拭きやおかずの取り分けを出来る方にお任せしている。 | 利用者が持参した茶碗やコップには名前をつけています。家庭と同じように手作りのものを提供したいと考えています。カロリー表示のある献立は栄養士が作成しています。好みのお寿司やピザをリクエストする「出前イベント」や外食に、利用者の食欲も笑顔も増えています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 栄養士の作成した献立で調理している。また24時間タイプの記録で水分量もチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | その方の能力に応じて声掛け・洗面台への誘導・全介助を使い分けながら口腔ケアを実施している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 24時間シートで排泄のタイミングを把握するとともにご本人の動きや表情から尿意・便意を察して声掛けし対応している。 | 失禁に対しては、本人に気を使わせないように、落ち込まないように心掛けて対応しています。周囲に気づかれないように「お着替えしたほうがいいですね」と声掛けをしています。排泄パターンを把握しトイレ誘導することで、失禁が減少した事例もあります。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 医師と相談し適した下剤の種類や量を調整している。また水分摂取や散歩などの運動を促しスムーズな排便が行われるよう支援している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 本人の予定や体調に合わせて実施。また、一人の職員が最初から最期まで対応することで安心して入浴して頂いている。 | 本人の体調や見たいテレビの時間などに配慮して、午前午後の入浴に対応しています。ひとりずつ足し湯をし、40分ほどかけゆっくりとコミュニケーションを楽しめるように支援しています。また、石鹸やシャンプーなど好みのものを使うことができます。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 年齢や体調に合わせ、日中でも適時の入床介助を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 処方的都度発行されるお薬情報を全員が確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 紙箱づくりやフロア内清掃・洗濯畳など残存能力に合わせたお手伝いをお願いし、終了後は必ず感謝を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 買い物の希望に応じた外出や、定期的な散歩を実施している。また、月一回程度の外出行事を行っている。 | 利用者の買い物希望や職員の誘いなどにより、積極的に外出しています。2, 3人での外出や1対1など、その時々で様々です。散歩中に、洋服や和菓子などを購入することもあり、地域住民に声をかけられたりもします。行事では車で外出したりしています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ご自身で払う希望のある方は外出時にご自分で持って頂く。またお金を手元に置いておきたいと希望される方にはご家族の了解のもと、預かり金とは別にお財布に現金を入れて自由に使って頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 居室内の電話設置は自由。また電話がない方でもホームに連絡を頂ければすぐにお繋ぎしている。耳が遠い方や電話まで間に合わない方は職員が一旦対応し引き継いでいる。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 照明は細かい調整が効くものを採用している。また、季節の花を皆で活けて飾っており、季節感と彩りを感じられるように配慮している。 | 玄関には、名前付の靴箱があります。リビングは床暖房になっており、利用者と一緒に作成したちぎり絵や製作中のもみの木などが季節感を出しています。窓は大きく、照明は暖色系と白色系に調整可能で季節により変化をつけています。除菌脱臭にオゾン発生装置もあります。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | リビングと玄関にソファとベンチを配置しており写真などを飾りくつろげる空間づくりを心がけている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 原則使い慣れた家具を持ち込んで頂いている。また、写真や誕生日のお祝いなどを飾り懐かしい居心地の良い空間になるよう心がけている。 | 個室前に名前や写真を貼り、自室とわかるようにしています。床にはクッション材を敷き、転倒しても骨折の無いよう工夫しています。使い慣れた机や椅子、ぬいぐるみなど好みのもの、テレビや固定電話、パソコンもあり、居心地の良い居室となっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | トイレの貼り紙や居室の名前などわかりやすく掲示し混乱なく自力で移動が出来るよう配慮している。また、手すりも細かく各所に配置し安全に移動が出来るよう配慮している。 | | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 事業所名 | 小規模多機能併設グループホーム「和の里」横須賀中央 |
| ユニット名 | 2ユニット |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。 | 「和の心」を理念とし、利用者・職員間・家族とのやり取りに質の良いコミュニケーションが出来るようミーティング等で話し合っている。また地域との交流は運営推進会議等で当施設の実情を説明していく中で理解が生まれ地域行事への招待も出てきている。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 町内会に加入しており、敬老の日など行事への参加声掛けを頂いている。また、地域小学校との交流もあり、獅子舞の訪問や児童との交流会などを設けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 運営推進会議や見学等で相談事を受けることがあり、その際には施設利用につながらないケースであっても真摯に対応し対応法についてアドバイスをを行っている。また運営推進会議では医師の簡単な講義の時間を設けており参考になる話を提供できている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 2ヶ月に一度開催しており、取組状況を説明している。その中で出席者からでた希望については柔軟に対応している。（例：従業員の名前が分かるように名札をひらがなで大きく付けてほしいとの希望に対応済） | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 不明な点はその都度相談し、市としての見解を第一に考え対応している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 毎月のフロア会議にて「身体拘束防止の手引き」を通読し研鑽に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束防止の読み合わせとともに虐待防止についても定期的に行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 10月に勉強会実施。該当者の担当弁護士とは連絡を密に取り、対応している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 説明の際は契約書の読みあわせだけでなく、より噛み砕いた説明を加えながら同意を頂いている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 日々の様子をお伝えする手紙にいつでも相談に応じる旨を記載するとともに家族がご意見を言いづらくならないようコミュニケーションの取り方に注意している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月のフロア会議で話し合うとともに日頃のコミュニケーションで課題の抽出に努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 年2回の面談と年1回の人事考課を行い職員の努力が処遇に改善されるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 各職員の業務理解度を把握するための書式を用意し、理解が進んでいない項目を個別に指導している。外部研修も参加を促し就業時間内で参加できるよう配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | グループホーム協議会の役員を担当するとともに小規模事業所同士の連携事業にも参加中。管理者・経営者向けの集まりにも参加し交流を深めている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 事前面談を丁寧に行うとともに体験入居をおすすめし双方の適性・ニーズの合致について慎重に話し合っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 初回面談時に状況・今のお気持ちなどをしっかりお聞きしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 事前面談でしっかり聞き取りをしておくとともに急遽発生した課題に対しても柔軟に対応している。 (身元引受人の急な入院などで生活用品が不足したケースなど) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | おかずの取り分けや食器拭きなど、各入居者様の残存能力に合った手伝いをお願いしお願い・感謝を通してコミュニケーションを深めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 毎月のお手紙で日々の様子をお伝えしたり面会時の会話の中で昔の様子などケアのヒントになる話を聞かせて頂くことがありとても参考になっている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 面会に来てくれた方を大切に対応するとともに近隣から移られた方には自宅周辺の散歩を行い昔からの知人と交流が図れるようお手伝いしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 双方の関係性を把握した上での席の配置を行うとともに合同でレクをやるなどして関係づくりをサポートしている。また認知症によりコミュニケーションが苦手な方は職員が間に入り対応している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 施設を転居された際、注意点等こまめな情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 日頃から多く会話し利用者の現状理解や人生に対する考え方を把握するよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 専用のシートでこれまでの生活や好みなどの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 一日24時間の睡眠排泄水分が把握できる記録用紙を使い、生活のリズムを把握している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 日頃から職員間で情報共有をするとともに家族からのお話も加味して内容を検討している。また毎月のフロア会議にて全利用者の現状を共有する話し合いを行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別の記録用紙にて24時間のリズム把握と利用者の個性・特性が出た場面は必ず記録に残すようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 入ったばかりで人見知りの強い利用者には希望に合わせ居室配膳を実施。また家族が怪我で通院付き添いが困難な場合は職員が対応するなど柔軟な支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 周辺地域の公園やコンビニ、飲食店と顔なじみの関係を作り、行事の際などに柔軟な対応をして頂いている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 24時間対応の医師と契約し、日々の健康管理や急変時など、柔軟に対処している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 週に一回、看護師が来所し入居者全員の体調管理を行っている。その際に職員や利用者からの相談対応を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医師と家族の面談時には同席し、状態の把握に努めるとともに利用者にとって最善を尽くせるよう話し合っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 状態把握から間を置かず医師・ご家族に相談し看取りの対応相談につながる事が出来ている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | マニュアルを作成し周知するとともに事務所内に掲示し定期的に見直しを行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | マニュアルを作成し事務所内に掲示、また年2回利用者とともに避難訓練を実施。消火器や施設内防災設備の取り扱いを学んでいる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 敬語を基本とし、その方に合わせたコミュニケーションを図っている。相手の希望から下の名前と呼ぶことになった方もいるが、その希望に変化がないかなどご本人の意向を伺いながら継続している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 近所のコンビニでの買い物や食事の量など個人の意向が反映できる場面では出来る限り利用者の意向を聞いてから行動している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 家族との外出時の帰宅時間延長も施設のルールにこだわらず柔軟に対応、喫煙なども要望に応じ対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 朝に着る洋服を一緒に選んだり、お化粧をする日を定期的で開催している。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食器拭きやおかずの取り分けを出来る方にお任せしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 栄養士の作成した献立で調理している。また24時間タイプの記録で水分量もチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | その方の能力に応じて声掛け・洗面台への誘導・全介助を使い分けながら口腔ケアを実施している。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 24時間シートで排泄のタイミングを把握するとともにご本人の動きや表情から尿意・便意を察して声掛けし対応している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 医師と相談し適した下剤の種類や量を調整している。また水分摂取や散歩などの運動を促しスムーズな排便が行われるよう支援している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 本人の予定や体調に合わせて実施。また、一人の職員が最初から最期まで対応することで安心して入浴して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 年齢や体調に合わせ、日中でも適時の入床介助を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 処方や都度発行されるお薬情報を全員が確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 紙箱づくりやフロア内清掃・洗濯畳など残存能力に合わせたお手伝いをお願いし、終了後は必ず感謝を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 買い物の希望に応じた外出や、定期的な散歩を実施している。また、月一回程度の外出行事を行っている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ご自身で払う希望のある方は外出時にご自分で持って頂く。またお金を手元に置いておきたいと希望される方にはご家族の了解のもと、預かり金とは別にお財布に現金を入れて自由に使って頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 居室内の電話設置は自由。また電話がない方でもホームに連絡を頂ければすぐにお繋ぎしている。耳が遠い方や電話まで間に合わない方は職員が一旦対応し引き継いでいる。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 照明は細かい調整が効くものを採用している。また、季節の花を皆で活けて飾っており、季節感と彩りを感じられるように配慮している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | リビングと玄関にソファとベンチを配置しており写真などを飾りくつろげる空間づくりを心がけている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 原則使い慣れた家具を持ち込んで頂いている。また、写真や誕生日のお祝いなどを飾り懐かしい居心地の良い空間になるよう心がけている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | トイレの貼り紙や居室の名前などわかりやすく掲示し混乱なく自力で移動が出来るよう配慮している。また、手すりも細かく各所に配置し安全に移動が出来るよう配慮している。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|-------------------------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 2 | 地域との交流をより深めるため交流の様子や情報を地域に提供し、参加の増加を図ることが必要 | 地域の行事への参加率増加とホームの情報を適時提供し開かれた施設を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への積極的な参加 ・運営推進会議で町内会の方にホームの運営について説明を行い交流の活発化に向けた意見交換を行う。 | 10ヶ月 |
| 2 | 35 | 災害対策の充実として地域と協力した災害対策の実施が必要 | 地域との交流を深め災害時に相互の助け合いが出来る仕組みづくりを行う | <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の避難訓練に参加する。 ・運営推進会議で町内会の方々に災害時対応について説明を行い協力体制の確立に向けた話し合いを行う ・ホームとして災害時に地域貢献できることが無いか検討を行い運営推進会議等で町内会へ提案を行う。 | 10ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |